

平成27年度 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1)中堅私学として選択される学校、安定した入学生徒数を確保できる学校
 - 学習への取り組みを強め、クラブ活動等と両立させる（文武両道を目指す）
 - 授業の質を高め、進学実績向上の取り組み、女子生徒を惹きつける学校作り
- (2)学校生活の充実
 - 各コースコンセプトに沿って、充実したカリキュラムと授業展開・生徒の力を引き出す進路指導、生徒の意欲と人間性を育む課外活動の充実等、生徒・保護者の満足度を更に高める
 - 施設、設備、環境整備…女子のクラブ活動育成のための設備、快適で清潔な学習環境づくりを年次計画で進めていく
- (3)保護者との連携を強め、共に協力して子どもを育てる

2. 中間的目標

□学習指導構想

- (1)学習活動の意識付けと家庭学習の習慣づけ
 - 授業を真剣に取り組む姿勢の育成と、授業内容の充実を図り中途退学者の減少を目指す
 - 家庭学習の定着化の取り組みを強化する
 - 外部講師による授業を、有効に進学実績に繋がるようにする
 - 成績等のデータをシステム管理し有効利用を目指す、また教材教具の充実を図る
- (2)不登校など生徒への指導
 - 不登校生徒に対する教室復帰への補助と学力保障の取り組みを行う
 - 特別支援教育の取り組み強化、カウンセリングの充実

□生活指導構想

- (1)「建学の理念」の柱「思いやりと礼節」を持った、人として立派な人物養成を目指す
 - ぶれない、生徒の心に響く指導を根気強く行う
 - 基本的な生活習慣の確立
 - 社会的マナーを遵守する姿勢の向上
 - 保護者・生徒との面談と意思疎通の更なる拡大
- (2)自治活動の更なる活性化。あいさつ運動の推進 地域活動との連携

□進路指導構想

- (1)系列大学を含めての連携
 - 系列大学との高大連携の取組を強化する（系列大学の魅力を生徒に浸透させる）
 - 大阪商業大学附属幼稚園との連携を強化する
- (2)一般入試・センター試験にチャレンジする生徒を増やし、その指導を強化する
 - 安易な進路選択を避け、自分の目標に向かって行く意欲と学力を育む
- (3)学習指導と進路意識の高揚（総合の時間の利用）

□入試・渉外構想

- (1)基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市・柏原市・生駒市・奈良市の中学校から、安定した入学生徒数を確保する
- (2)入試広報の効果アップを検討する
- (3)学校の教育姿勢および各コースのコンセプトの周知を図る
- (4)特化したコース<文理進学・スポーツ・デザイン>の浸透を図る
- (5) オープンスクール・塾対象説明会・入試説明会・デッサン講習会等の充実を図る
- (6) 重点地域への広報活動（地元を含め、重点地域へのピンポイント広報）を進める
- (7) 対中学校・対塾の渉外活動の連携を強化し、バランスを取りながら渉外活動の成果を図る

□教員の研究・研修構想

- (1)教員研修を年3回以上の実施・学校評価と連動して研究・公開授業の実施を進める
- (2)生徒アンケート・公開授業実施を通して、授業の充実・教育力のアップを図る
- (3)昨年度実施の実践校訪問研修を受けて、相手校との交流から得た本校の問題点・課題を把握し、これに対する研鑽を進め、本校独自の取り組み実践を作り出す
- (4)外部研修会への積極的な参加を図る
- (5)危機管理教育の徹底

□その他

- (1)地域との交流の更なる発展、あいさつ運動（地域清掃、学校評価への参加）、学校行事の活用
- (2)国際感覚育成
 - 海外修学旅行の実施・内容の充実を図る
- (3)学校評価の取り組みとその活用
- (4)駐輪場を現テニスコースと集約し、生徒の動線を整理し安全でよりよい環境にする

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[平成27年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□学校生活全般</p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 男 70% 女 65%, 保護者 91%, 教員 64%)</p> <p>○「先生は教育熱心だ」 肯定的回答(生徒 男 67% 女 60%, 保護者 84%, 教員 64%)</p> <p>【分析】 「学校の雰囲気について」の質問に対して、生徒・保護者は概ね肯定的な回答であるが、教員のみが否定的な回答の率が高くなっている。もっと良いものにしたいという意識の表れであると考えられる。 「あいさつに溢れる学校」については、数年前から目標として掲げ取り組んでいるものの、全体的に肯定的な回答の数値が低い。生徒・教員が一体となつてのあいさつ運動の強化が必要である。 学校生活の根幹となつている「クラス活動」については、概ね肯定的な回答が出されていることは評価できる。クラス活動を豊かなものにとつて生徒たちの考えと、学級担任の努力の結果と言える。 「コースの取り組み」についてはグローバル・スポーツ・デザインの評価は3カ年通じて高いが、文理については1～2年の評価は低い。ただし3年の評価は向上しており、学力がついたことへの感謝の表れが出ているのではないかと。 「資格取得の多様性」「教員の教育熱心」についても概ね肯定的な回答が出ている。さらにその数値が上がるように、学校として努力を継続する必要がある。</p>	<p>・学校の雰囲気（男性教員に否定的な意見がみられる。）</p> <p>・あいさつ（以前よりも積極的にあいさつする生徒、教員が少なくなつてきている。）</p> <p>・各コースの取り組み（グローバル・スポーツ・デザインの評価は高い。文理に関して、1、2年の評価が他と比べて低いが、3年の評価が向上している。進路が決まつたことへの感謝の表れとみられる。）</p>
<p>□学習に関して</p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 男 70% 女 66%, 保護者 68%, 教員 51%)</p> <p>○「意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 男 70% 女 68%, 保護者 69%, 教員 27%)</p> <p>【分析】 「授業のわかりやすさ」について、生徒の肯定的回答が7割を占めているが、3年において否定的回答が3割に達していることは問題視する必要がある。学習内容の難しさであるのか、教授法の問題なのか、生徒自身の学習に対するモチベーションの問題であるのか、リサーチしていく必要がある。保護者の数値は概ね生徒と同じであるが、教員の数値は否定的な回答に偏っている。自らの教授法の現状に満足していない意識の表れと分析したい。 「授業への意欲的な取り組み」は生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなつている。学習到達度への努力がまだまだ必要であるという意識の表れである。</p>	<p>・授業のわかりやすさ（3年の生徒と教員が否定的な意見がみられる。）</p>
<p>□進路指導に関して</p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 男 77% 女 73%, 保護者 72%, 教員 49%)</p> <p>【分析】 「授業・模擬試験の進路への対応」「進路情報の提供」について、生徒の回答は概ね良好であるが、教員の回答は否定的なものが多い。ここ近年、『安易な進路選択はさせない』という取り組みを進路指導部を中心に取り組んでおり、一定の成果も出ている。生徒・保護者に向けて、さらに情報を提供し、選択肢を広げるために指導を強化したいという気持ちの表れであると分析できる。</p>	<p>・授業、模試が進路に対応している（教員が否定的な意見を述べている。原因としては、学校側から出す進路に関するデータが少ないため、教員に十分な進路の情報を与えられていないのではないかとみられる。）</p>
<p>□生活指導</p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 男 71% 女 58%, 保護者 87%, 教員 81%)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 男 58% 女 54%, 保護者 93%, 教員 21%)</p> <p>○「生活指導について納得度」 肯定的回答(生徒 男 67% 女 53%, 保護者 87%, 教員 58%)</p> <p>【分析】 「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者（生徒・保護者・教員）ともに肯定的回答が大部分を占めている。日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。「学校の規則の妥当性」については、女子の回答で否定的なものが目立つ結果となつた。学年間で統一した指導が必要であろう。「生徒が規則を守っている」および「生徒は生活指導に納得している」に関しては、保護者以外の二者（生徒・教員）で否定的回答が目立つ。『校則はしっかり守らせるべきだ』という生徒の訴えと位置づけて、さらに生活指導を徹底する必要がある。</p>	<p>・大半の人が生活指導の規則に肯定的な意見を述べている。</p> <p>・学校の規則の妥当性（保護者は肯定的な意見、生徒・教員は否定的な意見が少しみられる。特に女子生徒に関しては否定意見が多かつた。学校側としては、規則を守らない生徒を指導することよりも、規則を守っている生徒をどうケアしていくのかに重点を置かなければならない。）</p>
<p>□設備について</p> <p>○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 男 53% 女 54%, 保護者 81%, 教員 12%)</p> <p>【分析】 「校内施設設備」については、否定的な回答が目立つ結果となつた。特にスポーツ専修コースにおいて校内施設（＝部活動施設）が充実していないことに対する意見が多かつた。</p>	<p>「校内施設設備」については、否定的な回答が目立つ結果となつた。特にスポーツ専修コースにおいて校内施設（＝部活動施設）が充実していないことに対する意見が多かつた。</p>
<p>□その他</p> <p>○「あいさつの溢れる学校である」 肯定的回答(生徒 男 56% 女 53%, 保護者 80%, 教員 57%)</p> <p>○「入学して（させて）よかつた」 肯定的回答(生徒 男 69% 女 66%, 保護者 90%, 教員 91%)</p> <p>【分析】 「入学して（させて）よかつた」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。しかし『どちらかといえばそう思う』が大半であり、『そう思う』が大半を占めるよう、また最終学年の第3学年の数値が向上するよう目指さなければならない。</p>	<p>・あいさつの数が年々減少してきている。普段の学校生活の慣れが原因かも知れない。 → 生徒にあいさつをさせる指導ではなく、教員から生徒に積極的にあいさつを行っていくべきだ。</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
□ 学習指導構想	<p>(1)学習活動の意識付けと家庭学習の習慣づけ ○授業を真剣に取り組む姿勢の育成と、授業内容の充実を図り中途退学者の減少を目指す ○家庭学習の定着化の取り組みを強化する ○外部講師による授業を、有効に進学実績に繋がるようにする ○成績等のデータをシステム管理し有効利用を目指す、また教材教具の充実を図る</p> <p>(2)不登校など生徒への指導 ○不登校生徒に対する教室復帰への補助と学力保障の取り組みを行う ○特別支援教育の取り組み強化、カウンセリングの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習推進への取り組み ベル着、50分間授業の徹底 授業、満足度アンケート実施と検証 公開授業・研究授業の実施 他大学進学対策、国公立二次試験対策 授業確保と学力保障 教務システムの有効利用 評価の公平さと適性を図る 不登校規定の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 各検定試験合格数について目標設定。 英検準2級→受験者数の30%合格 全商簿記検定2級→受験者数の50%合格 漢検2級→受験者数の50%合格 ICT プロフィシエンシー検定(P検)の受験→3級合格を目指す 授業公開日の設定 ベル着の徹底 生徒スケジュール帳の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 英検準2級合格→合格50名<受検410名> ※参考 2級合格→合格5名<受検92名> 全商簿記検定2級→合格34名<受検282名> 漢検2級合格→合格1名<受検5名> ※参考 準2級合格→合格8名<受検45名> P検→3級合格93名<受検数263名> ※情報処理検定3級→合格20名<受検21名> <p>結果は、目標値よりかなり低い状態であるが、合格件数は昨年度実績よりも上昇している。特に情報科で今年から取り入れたP検で多くの合格者を輩出した 授業公開期間については有効利用がされていない。実施方法などについて再考を要する。 教員側の意識はおおよそ改善できたと思われるが、50分間授業に集中させるための教員側の創意工夫も必要不可欠である 手帳(スクール手帳)を用いて、HR活動なども行われた事例もあった(本年度より採用)</p>
□ 生活指導構想	<p>(1)「建学の理念」の柱「思いやりと礼節」を持った、人として立派な人物養成を目指す ○ぶれない、生徒の心に響く指導を根気強く行う ○基本的な生活習慣の確立 ○社会的マナーを遵守する姿勢の向上 ○保護者・生徒との面談と意思疎通の更なる拡大</p> <p>(2)自治活動の更なる活性化。あいさつ運動の推進 地域活動との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問 保護者との連携を強め、生徒の人権を尊重しながらの指導 臨床心理士による対応 カウンセリング室など特別教室の整備 保護者との面談の強化 生活指導週間の設定 生徒情報の共有 生徒の自主活動の確立と地域とのつながり 清掃活動 あいさつ運動 	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会を年最低2回以上実施 カウンセリングの充実 学校全体の年間遅刻数を6000以下にする 朝の学校周辺の清掃活動の定着 	<p>少なくとも1学期末、2学期末に実施 家庭訪問は必要に応じて可能な限り複数名教員の訪問で実施した カウンセリングが実施回数315回<昨年229・一昨年248>は、近年で最も高い数値を表している。これは、2人のカウンセラーの尽力とカウンセリングそのものが本校で定着してきた結果と思われる 年間遅刻数6201名<昨年5911・一昨年5442>僅かながら目標達成することができなかった。 在籍生徒数は増加しているが、目標値を下げずに、数値目標達成をさらに取り組みたい。 必要に応じて、クラブなどの協力で清掃活動を行った</p>
□ 進路指導構想	<p>(1)系列大学を含めての連携 ○系列大学との高大連携の取組を強化する(系列大学の魅力を生徒に浸透させる) ○大阪商業大学附属幼稚園との連携を強化する</p> <p>(2)一般入試・センター試験にチャレンジする生徒を増やし、その指導を強化する ○安易な進路選択を避け、自分の目標に向かって行く意欲と学力を育む</p> <p>(3)学習指導と進路意識の高揚(総合の時間の利用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習の充実 進学実績 就職指導の強化 新たな高大連携の模索 提携校作り 総合学習の時間の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率向上 国公立大学、難関私立大学合格を目指す 総合学習の企画提案 センター試験受験者について 受験対策講座 	<p>最終進路決定率は93.1%(昨年度92.9%) 系列大学への進学率は25%を超えた。 大阪大学、大阪市立大学、大阪教育大学をはじめとする国公立大学への現役合格者が7名、関関同立18名、産近甲龍51名、関東圏有名私大2名合格と多くの合格者を出すことができた。 計画に沿って、様々な分掌・コースが企画しているが、学年に指導を委ねている面もあり、改善が必要。 センター試験受験者は32名。決して多い数ではないが、その中で私大センター利用や国公立二次にチャレンジし、合格を勝ち取ったものをいた。 文理進学コース生徒を対象に、卒業試験後に受験対策講座(二次対策、一般入試対策)を実施した(一部外部講師に依頼)</p>
□ 入試・渉外構想	<p>(1)基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市・柏原市・生駒市・奈良市の中学校から、安定した入学生徒数を確保する</p> <p>(2)入試広報の効果アップを検討する</p> <p>(3)学校の教育姿勢および各コースのコンセプトの周知を図る</p> <p>(4)特化したコース<文理進学・スポーツ・デザイン>の浸透を図る</p> <p>(5) オープンスクール・塾対象説明会・入試説明会・デッサン講習会等の充実を図る</p> <p>(6) 重点地域への広報活動(地元を含め、重点地域へのピンポイント広報)を進める</p> <p>(7) 対中学校・対塾の渉外活動の連携を強化し、バランスを取りながら渉外活動の成果を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール、入試説明会企画 塾対象説明会企画 相談ブースなどへの参加 渉外担当者との連携、情報交換 中学校美術教員との研究授業 出前授業 ホームページ作成 パンフレット、リーフレット作成 広告掲載 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール ホームページ作成 出前授業 広告掲載 	<p><オープンスクール> 第1回+第2回 540組(昨年556名)微減 <入試説明会> 第1回~第3回 712組(昨年837名)減少 昨年度を下回る数値となっており、受験数(入学数)との関連性を分析したうえで、今後の対策が必要である その他、塾対象説明会や他説明会については、例年と変わらない数値である。 パンフレットとホームページを連動して複数年契約で作成する契約を行い、本年が初年度。企画広報部が窓口となって運営している。クラブ活動の結果等のトピック掲載件数も増加しつつある 中学校への出前授業は9中学(昨年7中学) 八戸ノ里駅構内に本校の広告を掲載した</p>

□ 教員 の 研 究 ・ 研 修 構 想	<p>(1)教員研修を年3回以上の実施・学校評価と連動して研究・公開授業の実施を進める</p> <p>(2)生徒アンケート・公開授業実施を通して、授業の充実・教育力のアップを図る</p> <p>(3)昨年度実施の実践校訪問研修を受けて、相手校との交流から得た本校の問題点・課題を把握し、これに対するの研鑽を進め、本校独自の取り組み実践を作り出す</p> <p>(4)外部研修会への積極的な参加を図る</p> <p>(5)危機管理教育の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施 ・研究授業の実施 ・教員研修 ・外部研修会への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施 ・研究授業の実施 ・教員研修 ・外部研修 	<p>期間を設定したが、有効な利用はされていない。今後、内容も含め、改善策をとる必要が急務である。</p> <p>本年度より、各教科より少なくとも1名以上の教員が研究授業を行うこととした。次年度以降も継続して行う予定である。</p> <p>教務部主催の「教科指導に関する研修会」を実施、希望者参加型で毎回10名程度の参加があった。</p> <p>予備校主催の教科研修、教育課程に関する研修会などに参加、今後フィードバックの方法について、検討する必要がある。</p>
□ そ の 他	<p>(1)地域との交流の更なる発展, あいさつ運動(地域清掃, 学校評価への参加), 学校行事の活用</p> <p>(2)国際感覚育成 ○海外修学旅行の実施・内容の充実を図る</p> <p>(3)学校評価の取り組みとその活用</p> <p>(4)駐輪場を現テニスコースと集約し、生徒の動線を整理し安全でよりよい環境にする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方への文化祭招待チケット配付 ・修学旅行事前学習、実施、事後学習 ・学校評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の実施 ・学校評価 	<p>本年度12月ハワイへの修学旅行を実施。次年度もハワイを目的地として実施する予定。学年団を中心に、事前指導(地理、歴史、言語など)を行った。</p> <p>年度末(3月)に学校評価会議を実施した。本校教員、本校生徒、保護者、大学関係者と会議を行った。</p>